句集和漢三才

027
855
1

027
355
1

愛知女專
第 11607 號
圖書

辭世

ゆきとけハ
ほとふきなし
をはりかな

故人　洗雪

明和四のとし始めまちは見ることも世の君むれていそうらひ
つらくうちしやしはひしかもそめはなく男のうちに体まかさ
廿日より明るまでもちていとそうしなべきなふハらにあり
し紀州の見て妙の御それうち歎きれてまくなき体のみとも
せしもそしめさずりを志して絶にて体の躰のたまもみゑとも
おもかくはなしとめれど又に志浩しハ多くて廿日まてゑの日出
己乃明はかりにあむ身まゝをはひのかも今ハのとにて硯を
よひ筆をとりて十より七とものら歌をそへるけふかいはなし
はひのかまでいさ悲しみをとてくいをんきべせむきぐかく

今ゝ泣になくも今ハうひかしりて思ふてしかつて友どち慕ふさ
人のこゝろばしをつがせて後のうさもせめて唐や倭との文に
をとらぬわつかなくなりき霊によむらん歌の跡思ひつゞく
香をみつゝぬれまよしにしぐれ空や　（女）わやまぬ
おかりしに似ひしかど香ハ嬉しく　（かゟ）宜水
ことにまさに今をしのひてとをて失ハ玉まひに似まくとて
むかし侍りも世の中にたをおもひうかむつる哉
湯ハ水にうつるも風も光なき　涼宇

泣雪めし がゆかつてこそ此く誰に
此人ハなきりひのいとあはき中にて
月雪ぶあけて花ちるわたよりて後
時のうつりふるぞいとゞ思ひ出てまぬれ
綾太理

天翔游
魂やちどりを
友としと

京

[illegible]

相[illegible]

[illegible]

総丸

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江戸

[illegible]

武蔵梅

笑林

不羨

可由

可考

一壺

如峯

呼友　登江　有隣　葎齊　柳巴　可鳥　負宇　東季（女）　桃雨

爲溪菴　卧皐

信州高遠旅客　湖右

文星

釋　高卧　平瓜　芙蓉菴（御嶽山武八王子）

子一

[illegible]

ちりぬるは枝にもかしこ　江戸　其梅

おもはずとめぬるや袖に沖さはる　玉貞

あれもそもの数や春まる　兎洲

あづまし[illegible]

小春うゝ清めるゆ悪し　松乃吉　市仙

春はるさまゝ[illegible]拾遺の美にさく　吟風

月のおに[illegible]　武蔵桃林

おがしやつ[illegible]　武蔵西羊

おりひさや雪に枝の[illegible]　秩父大宮　爲谷

友[illegible]物出し小[illegible]　未了

[illegible]　上毛藤岡　素明

りみぢ[illegible]　武州多摩　久江

今ゝとあるもせにあぐらしのあくるもせもぐ　武蔵谷　忠

菊清雲雲あぐ紙ゝ袖に宿く涉月　上毛新町　みつき

あぐらしやきゝ国まぐたぐ法ゝし　伊勢山田　蘭滋

、清泉に立たるうぐゐ一くだ里、　神風館

悼根洗雪　端國庶

風色蕭條玉水邊空林葉落起寒烟
臨流堪憶觀魚處今日回頭獨悵然

仝　東起巷

蕭颯北風木葉飛應憐世事與心違
天涯回首人何處玉水河邊去不帰

むらしの野はあくまでもくるしかりし
玉河のほとりなる青梅てふ所の流を
めしはしに菖蒲根乃衣あしはとをて
立ぬるをしをあるじ行ふ山ふちのり遠る
きゆ紀之国の名よみ侍るとてあるじおこひ
づらくそが川はいかゞ侍てあに菖蒲ふる
さく人はわるとものこさえ切しとやう

上は御はく人はうるとて

俳こふしゝ

一意

国書刊行会

柳亭種彦著